京都大学新聞
学生団体
京都大学新聞社
京都市左京区吉田京大構内
（075）761－2054　直通
（075）761－2054（内線2571）
FAX　（075）761－6095
振替　01020－3－3909
1部100円

どこか遊び心を感じさせる、そんなお気に入りを見つけたい。
選ぶ楽しさ
わたし流
京都駅前地下街
PORTA
●ショッピング街10:00～20:00
●レストラン街11:00～21:00（モーニング8:00～）
☎（075）365-7520

■今号の紙面■

一面　7・11総長交渉
　　　私の教養論
二・三面　ビルマの民主化運動
四面　東大駒場寮

総長交渉

次回団交は秋に

情報公開と合意形成をねらう

示されず　副学長制の内実

七月交渉

七月十一日の午後四時から経済学部七番教室において、井村裕夫京都大学総長に対して、学生ら有志が団体交渉を行った。議題は、六月二十四日に評議会決定された「副学長制導入・学生部の事務局編入」をめぐるもの。参加学生数は五百人をこえ、会場に入りきれずに数十名が立ち見となった。しかし交渉は、「学生との合意形成の必要を認めない」とする総長と、合意形成のプロセスを重視した有志との間で終始話がかみ合わず、午後九時前にもの別れに終わった。

六月二十四日の評議会決定に対して、七月八日に大規模な抗議集会が行われた。その際になされた井村裕夫京都大学総長との確約にしたがって、十一日に団体交渉が行われた。京都大学での総長との直接交渉は、一九七七年の岡本総長との団交以来二十年ぶり。京都大学当局による一方的な学内再編を懸念して、今回の決定についての公式な説明をもとめ、再編に際して学生らの意見を反映させるための試みだ。

当日は昼休み頃から、多くの参加者を集めようと、学生を含む有志団体がビラまきなど宣伝活動を盛んに行った。会場入口には様々な団体からのビラ等がところ狭しと並べられ、会場内の様子はスピーカーを通じて会場外にも伝えられた。団交の始まった午後四時には参加人数が五百人をこえたため、会場の経済学部七番教室には収容しきれずに、座席の後ろや窓の外での立ち見の参加者も五十名以上見られた。当局側の出席者は井村総長・瀬地山総長特別補佐・宮崎学生部長のほか学生部委員会の教官が数名。

まず有志による運営団から今回の団交に至った経緯が説明され、それに続いて寮や各学部自治会・西連協・紅・民受連・劇団などが、京都大学が抱える問題点に対してそれぞれの立場からアピールを行った。そこでは学生部の対応が不十分であることや、情報公開に対して当局の態度が不誠実であることがほぼ共通して指摘された。団交の議題は、「六月二十四日の評議会決定に際して当事者への合意形成がなされなかったことについて」、「現状の学生部の対応が不十分であることについて」、「今回の機構再編について」の三点が提起された。しかし一点目の議題から早くも交渉は紛糾した。

有志側の「今回の決定は学内での自治・自主活動にとって大きな関わりを持つ問題であると思うが、それにもかかわらず、事前に当事者との合意形成がなされなかったという事実についてどう考えるか」という問いに対して、井村総長は「評議会が京都大学の最高意思決定機関であり、その決定が有効であることは法律で定められている。そこで決定されたことはのちに『広報』で発表する。合意の必要があるかないかはこちらで考える」と答え、学生ら問題当事者と対話する意思がないことを公式に認めた。情報の公開をいつ行うべきかは現在検討中であるとしつつも、今回の改変については全く事務機構上の改組にすぎず、変更点がない以上は合意の必要はないと判断したという見方を示した。しかし、「問題となっているのは変更のあるなしではなく、それらを判断するための情報からわれわれが排除されているという点である。決定の過程での合意形成の必要を認めないのか。現状で学生の意思をくみ上げる機構になっていないと思うが」という問いに対しては『全ての学生の声を聞くのは不可能である以上、合意の必要はないと判断する。学生は『勉強』をすべきで、（学内再編の）決定権は教官団にある」と回答した。これら回答に対して会場内では非難の声が幾度もあがった。途中一度の休憩をはさみつつ団交は継続されたが、この一点目の議題で接点が見出せず、交渉は平行線をたどった。

八時半になって、井村総長が「明日東京で会議があるので今日はここで一度打ち切りたい」という意思を示した。そこで協議の末、近日中に次回団交を行うという確約を交わして総長は退出し、今回の団交は幕を閉じた。結局は二、三点目についての交渉は全くなされないままだった。

今回は副学長制の具体的な性格についての確認や、その方向付けへの当事者の参加等の確約は一切なされなかった。副学長制への移行の追認になりかねないという問題点はあるが、次回の団交では、今回の団交では話し合いがなされなかった「副学長[illegible]みこみ、何[illegible]生の権利の[illegible]改善に向け[illegible]される。

なお、当[illegible]後を約束し[illegible]交は、その[illegible]ジュール上[illegible]理由で、七[illegible]となった。[illegible]帰省してい[illegible]ため、より[illegible]期を選び、[illegible]以降になる[illegible]

SMI EDI COLOR 2.1 エディカラー
京都大学新聞は住友金属工業のEDIcolor2.1で製作されています。

私の教養論　木村 崇

【第五回】　貧困の京大と外国語教育の貧困

外国語教育は教養教育ではない。運用能力を身につけさせるという実用目的で置かれた科目である。外国語教育を「通して」教養が深まることはありうるが、それは副産物にすぎないのである。だから話は教養論の枠からはみ出ることになるが、許してほしい。

外国語教育では何が大事か。学ぶ者に求められるのは明確な学習動機、教える者にとっては、それに見合った適正な教授法である。また学習・教育が効果的に行われるためには、適度なクラス規模も必要である。優秀な機器類は、あるに越したことはないが、かならずしも必要条件ではない。この三点について実態を明らかにし、解決策を最後にのべることにしたい。

●学生の多数は意欲が希薄

キャンパス内を歩いていると、「英語はリスニングとったわ。すぐ下に答えが載ってて楽やし」と言う声が聞こえた。楽さ加減が科目選択の基準になっていることは知っていたが、よそ事ながらさすがに腹がたった。ぼくの教えているロシア語はめんどうだと思われているらしく、一時は新規登録者が百七十名を超えたものの、ロシアの凋落低迷もあって三十名ほどに減ってしまった。数年前、工学部が中国語もとれるように制度を変えたところ、受講生の爆発的増加で大混乱になった。総数ではフランス語を一気に超えてしまったのである。非常勤講師で急場をしのいでいるが、すごい多人数教育を強いられている。中国語人気は全国的な傾向だが、選択理由の第一はどこでも、どうやら漢字だから分かりやすそうだというものらしい。

語学

現在の外国語教育環境と副専攻――語学を学ぶ目的は？

せっぱつまらない限り、何語をどの程度やるべきかということは、分からないものだ。動機付けを考慮しない現在の制度に起因することは明らかだ。それにしても、学生の怠惰には手を焼く。語形変化の課題をやらせ、「ところで、今の文の意味は」と聞くと、たいがい、意味を問う問題じゃないのにという顔つきをされる。よその国の言葉に対する好奇心の全般的欠如が京大生の多数を支配している。

●どうやって教えればいいのだ

専門基礎科目としての外国語なら、到達目標も、そこへ至る戦略も立てようがある。旅行がしたいでも、文通がしたいでもいい、何か具体的動機があれば、それに合わせて限られた時間の中で工夫も可能であろう。しかし、見たところ多くの外国語担当教員は、受講生の要求に応えることなど、どだい無理な話と最初から諦めているのではないか。ロシア語でいえば、どんな到達目標を持つにしても、初級段階で六百五十時間の学習が必要（フランス語は四百五十時間と聞いた）である。TOEICはたしか、二千時間リスニング訓練をすれば誰もが一定水準に達するという経験則に基づいているはずだ。ところが、教室授業の四単位分は、実質せいぜい八十時間である。外国語教授法の基本原理は、言葉に「ついて」教えるのではなく、言葉「を」教える、なのだが、ついその逆に傾いてしまうのは致し方ないことというべきか。

●発展途上国以下の学習環境

現在、英語の二回生クラスは、平均八十名である。百数十名になるクラスもあるのだ。一回生の指定クラスでも五十七名。学生数が年々増えるのに常勤教員は定員削減（この原因については、機会があれば別途説明したい）で減らされ、非常勤依存率は六十八％にもなる。学生数のあまりの多さに驚いて、非常勤を断られるケースもあるという。

旧ソ連でロシア語教授法の実習を受けたとき、一クラスは八名を超えてはならないと教わった。ぼくのクラスは六名だった。四十名以上のクラスで外国語を教えるのは、経済力のない発展途上国の場合だけといわれた。ところが日本は、大学設置基準によって、外国語のクラスは五十名を基準としている。京大はこれをもはるかに超えているのである。

この問題の解決方法は現在全学的に検討中であるが、有力な意見は今のところ、総合人間学部[illegible]しのげ、というものらしい。ぼくは大学[illegible]マ担当している。もし英語教授能力があ[illegible]う一コマやったってかまわない。でも、[illegible]決するのか。

●非専門外国語は必修単位からはずそう

ロシア文学や文化を専攻したい学生な[illegible]四能力開発に必要な単位をとらせ、かな[illegible]ることを要求する。スラブ系の言語も他[illegible]てほしいという。英語はもちろん、フラ[illegible]語も勉強するようにすすめる。理系の専[illegible]学系、虚学系を問わず、英語は欠かせな[illegible]教育で使われる英語の水準についていけ[illegible]力で勉強させる必要が生じる。さいわい[illegible]学生にとっては既習の科目なので、LL[illegible]書館AVメディア閲覧施設、総合情報メ[illegible]などの共同施設を活用させるのがよいだ[illegible]の教材開発はそれぞれの学部と協力して[illegible]う。文系は、虚学系なら、必要なだけの[illegible]門科目にする。文系の実学系は理系と事[illegible]はずである。開講される外国語科目は、[illegible]に関わるか、副専攻的需要を満たすため[illegible]こうすれば、現在の矛盾の多くは解決す[illegible]ぼくは考えている。

（きむらたかし氏は総合人間学部教授）

多面的に平和の意味問う

第17回　平和のための京都の戦争展

この八月上旬、立命館大学国際平和ミュージアムを会場に、「97平和のための京都の戦争展」が催された。このプログラムは毎年恒例で、今年で十七回目の開催である。

展示コーナーでは、「もっと広く伝えたい戦争の真実展」「今こそ輝かそう平和憲法50年展」「沖縄からのメッセージ展」「広島・長崎被爆写真」と題し、テーマ別に資料が陳列された。

展示されたのは主に写真パネルだが、そのほか、入口に置かれた「憲法屏風」（戦後憲法の前文を毛筆で書いたもの）、同志社大学で教鞭をとり、戦争反対を唱えたため右翼に刺殺された山本宣治の「死顔絵」、広島に落とされた「リトルボーイ」の原寸大模型、被爆の様子を生々しく伝える「原爆母子像」など、内容は多岐にわたった。

また、特別展示として、ユーゴ紛争で村を追われた子どもたちからの絵と手紙を紹介した「バチュガの子どもの絵」では、現在も引き続く戦争の悲劇性が訴えられた。日本人との交流のきっかけとなったラーデ君の手紙には、「ぼくは、おじいちゃんといっしょにいられないこと、ふたりでいっしょにバチュガの村を守れないことがつらい」と、故郷から引き離された子どもの哀しみが切々と語られていた。

そのほかの子どもたちの手紙も、「子どもらしい夢は見なくなった」「ぼくたちは耐えしのび生きていかなければなりません。この土地は代々、ぼく[illegible]の住む土地だった[illegible]ら」など、厳しい[illegible]健気に生き抜こう[illegible]が綴ってあった。

展示以外にも、[illegible]やクロアチア事情[illegible]日異なるテーマで[illegible]講演会や、戦時食[illegible]いとんの試食（た[illegible]やすく味つけして[illegible]か、さまざまな興[illegible]ベントが行われた[illegible]も、家長知史の『[illegible]画教室』（岩波ジ[illegible]書）や、自由主義[illegible]判する本、沖縄か[illegible]などが販売され、[illegible]ムの内容を補完し[illegible]

なお、京都平和[illegible]センターでは、「戦[illegible]各地で開けるよう[illegible]展示の貸出セット[illegible]ている。問い合わ[illegible]センター（電話〇[illegible]三一－三二四九／[illegible]六四七四）まで。

（森田）

晴耕雨眠

毎年思うことだが、夏休みは過ぎ去るのが速い。生活自体は普段と変わらないのに。

京大新聞の編集部も人淋しい季節だ。秋でも冬でもなく、夏が、というのは学生特有のものだろう。編集員も帰省や旅行でみんな消えた。

誰もいないBOXで一人で仕事をする。これほどむなしいことはない。よし、夏休みが終わったらどこかへ行くか。

毎年そんなことを考えている。旅に出たいが、そんな金もなし。むなしい……

（和）

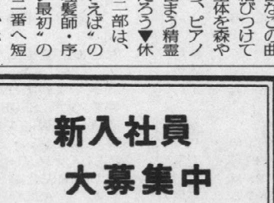
こと ばん

柄にもなく、[illegible]京都コンサートホールへ行った。[illegible]「誰もが気軽に『文化』に親しめる」というもの。[illegible]

（森田）

京都大学100周年記念出版　（ビデオ・CD・本：3部作）
京都大学の百年
絶賛発売中
◆発刊記念特価　20,500円　（税、送料込）
◆推薦の言葉
[illegible]
森 毅　京都大学名誉教授
CD「我が青春の京大」
VIDEO「京都大学の百年」60分
本「京都大学の精神」A4・150p
ビデオで語る京大百年の秘話
ドキュメント歴史映像
歴代総長が語る京大精神
開学百年にして初めて実現ビデオ・CD・ブック
愛蔵版絶賛発売中！
100人の合唱団・ソリストによる母校の歌
京都大学の100年を全て網羅した画期的多元的三部作
見る・聴く・読む京大の歴史
パソコン通信「KYO-U-NET」
◆お申込み・お問い合わせ
（株）紫翠会出版　［京大会館隣］
TEL.751-2561
FAX.751-6922

新入社員
大募集中



京都大学新聞社
京都市左京区吉田京大構内
（075）761－2054（直通）
753－7531 内線2571
FAX 761－6095

関西文學
月刊同人雑誌　毎月8日発売
定価700円（送料76円）
編集・発行／関西文学の会　発売／株式会社関西書院
広く才能の糾合を目指し
活動の主体たる同人・会員への
加名・入会を期待しています
[illegible]
大阪市生野区林寺2－20－1
☎（06）714-5846／FAX（06）714-2023
郵便振替／大阪 00950－1－24838

ジョセフ・ニーダム著　東畑精一　藪内清監訳
全11巻
中国の科学と文明
世界的名著の日本語版
西欧的文明観にパラダイム・ショックを与えた壮大なる書
[illegible]
新思索社

KYOTO UNIVERSITY PRESS

ここで、私はビルマに何を見いだせるのか

**今まさにここにある関係、
遠すぎる「新しい」関係、
必要な今、存在しない関係。
つくるもの？つくられるもの？**

特別寄稿

ドー・アウンサンスーチー

第五十三次国連人権委員会へのメッセージ

大熊にゃあ訳（総合人間学部一回生）

ドー・アウンサンスーチーによる第五三次国連人権委員会へのビデオメッセージ
ジュネーブにて、一九九七年四月八日火曜日午後一時三十分

国民民主連盟の指導者でノーベル平和賞授賞者のアウンサンスーチー氏は、第五三次国連人権委員会に対する公式的な挨拶を、ビルマから密かに持ち出したビデオテープで行った。

・一、まずこの質問から始めましょう。現在、あなたとあなたを支持する議員に対して、政府が加える圧力はますます強まっています。このことについてどうお考えですか。

ビルマでの人権侵害について語るとき、私は―いいえ、私たちはもはや、どの権利が侵害されているかなどと考えることは不可能になっています。そうではなく、侵害されていない権利には何があるのか、という点でしか考えることができないのです。全ての権利が侵されつつあると言ってよいと思います。

ＮＬＤのメンバーと支援者の行動に対する制限は本当に極端なものです。そうした制限によって、私たちの政治活動が妨害されるだけではありません。支援者の家族には経済的圧力が強く加えられているばかりか、経済活動、さらには教育に対してさえ政府は干渉してきているのです。

両親が政府の命令に従わなければお前を解雇する、あるいは採用試験を受けさせないなどと脅された人たちもいます。命令に従わなかった場合、どちらの脅迫が実際に実行に移されるのか私にはわかりません。こうした脅迫はずっと行なわれています。また、ＮＬＤのメンバーや支援者とかかわりがあるという理由で罰せられている人もいるのです。

今現在でも、ＮＬＤに所属する議員の多くが辞任を強要されています。家族への圧力のため辞任を余儀なくされた議員もいます。また、いまも辞任を拒否している議員もいます。ある議員は長年住んでいた国営住宅を追い出されました。彼がＮＬＤから脱党することを拒否したのがその理由です。

現在も、係争中の事件が数多くありますし、ＮＬＤの議員に対する数々のでっちあげも存在しています。

ＮＬＤ活動の妨害

最近の事件で、私がかなりの興味を持っているのは、キンニュン将軍（訳注：第一書記）と親戚関係にある、ドクター・タンニェイン（Dr. Than Nyein）の件です。

ドクター・タンニェインは、免許が正式に発行される前に診療所で患者を治療していたという理由で逮捕されました。私の知るところでは、彼は昨日（訳注：四月一日）釈放され、一〇〇〇チャットの罰金を課せられただけでした。もちろんこんなことはそうそう滅多には起こりません。ＮＬＤのメンバーが何らかの懲役判決を受けることなしに釈放されたという話を聞いたことがありません。ドクター・タンニェインが罰金刑だけで釈放されたのは、彼が逮捕された理由をみながあれこれ推測していたからなのかどうか、わたしにはわかりません。

ドクター・タンニェインの逮捕は、キンニュンの権力掌握能力が弱まっていることの証拠だとする意見があります。こうしたうわさが広がったため、当局は彼を簡単な処罰で釈放するということが政治的に重要だと考えたのかもしれません。しかし、それならば同じような状況で逮捕された人たちもまた同様に簡単な処罰で釈放されるべきでしょう。

別のＮＬＤの医師についての事件があります。彼は、たしか過失致死で告発されました。私の解釈では、彼は瀕死の患者を病院まで運ぶために注射をしたのですが、患者が途中で死んでしまったというのがその理由です。当局は当初の告訴が有効でなくなったため、告発の罪状を変えていると思います。

しかし、死体解剖をおこなってみたところ、その患者の肺はほとんど無いも同然だったことがわかりました。彼の肺はほぼ全て結核で侵されてしまっていたのです。ですから、患者はどちらにしろ死ぬしかなかったのだと結論する以外になかったのです。

ところが、彼らは今度は告発の内容を変えようとしています。ドクター・タンニェインと同じ罪状、つまり正式な免許なしに診療所で治療をおこなった、という罪状で彼を告発しようとしているというではありませんか。

ビルマの医師は診療所を運営する免許を持っていないひとがほとんどです。もちろん、こうした医師は開業権を保証する正規の医師免許を持っています。しかし当局が免許をわざわざ発行しようとしないため、大多数の医師は単に診療所免許を申請しないだけなのです。

彼らはこうやって規則と規制とを自分たちに都合よく利用します。ＮＬＤの活動を制限するため、そして人びとが民主主義運動のため有効に働くことをやめさせるために、法律を好きなように使うのです。

私の私道、私の家へ通じる道路は、今や三ヶ月にわたって封鎖されています。それが始まったとき、つまり彼らが最初に封鎖をおこなったのは九月のことでした。が、当時は断続的なものでした。ときおり道が空き、また封鎖されたりしました。しかし、十二月三日以来道路は完全に封鎖されました。そういうわけで、現在三ヶ月になります。明日で、ちょうど三ヶ月です。

そしてもちろん、この封鎖は私の家でＮＬＤの活動を行わせないようにと意図されたものです。人びとは私に会いに来るたびに、当局の許可を受けなければいけません。またビルマ人が私に会いに来るとき、国民登録証明書の提示を要求されます。そして時にはバリケードの所で長時間待たされることもあります。国外から来た人、特にジャーナリストの場合は、入ることを全く許可されないことがあります。

バリケードのところにいる人間たちは、だれそれが来ると前もって知らされているのですが、もしある人を通したくないと思うのなら、通しません。彼らは同じことをジャーナリストや外交官に対しても行なっています。つまり、これもまた、ある種の嫌がらせ、国民民主連盟の活動を制限しようとする嫌がらせの一つだということです。

ここでＮＬＤが単なる一政党ではないという点をはっきりさせておきたいと思います。ＮＬＤはビルマにおける全ての民主化運動を代表しています。民主主義のために活動する他の全ての政党が事実上壊滅させられているからです。

もちろん、少数民族政党があります。しかし、こうした政党は小規模なものです。また、国民的な基盤のもとに運営されているのではありません。活動は自分たちの支配地域の中に限られています。このことがＮＬＤを全国的規模で活動し、民主主義を求める運動を代表する唯一の政党たらしめているのです。つまり、ＮＬＤの活動を制限することは民主主義を破壊するのと等しいものなのです。

国際社会が国連総会の決議で、ビルマに対して民主主義の早期回復を要求していることを思い出していただきたい。それは一九九〇年の選挙を通じて表わされた人びとの願いに沿ったものなのです。これは非常に立派な決議なのですが、実行されなければ意味がないのです。

この決議はまた、ビルマの人びとが自国の政治プロセスに対する完全で自由な参加ができるようにと要求しています。しかし、これも実行されなければ意味がありません。

私たちの政治的権利は日ごとに小さくなっていきます。より多くの制限と、より大きな弾圧が加えられているのです。当局はあらゆる種類の政治運動を壊滅させようと決意しているように映ります。

やがてみなさんの多くが耳にするだろうと私は確信していますが、現政権は連邦連帯開発協会（Union Solidarity and Development Association; USDA）と呼ばれる、社会福祉機関のようなものを設立しました。これを彼らはときおり政治的な武

資料
◀ビルマ近現代年表
一八八六年～

1886年		アラウンパヤー朝がイギリスに滅ぼされ、植民地となる。
1938～39年		イギリスからの独立を求める国民運動が盛んになる。
1941年	12月	日本軍の協力のもと、バンコクでビルマ独立義勇軍(BIA)が結成される。
1942年	5月	ビルマのほぼ全土が日本軍の軍政下に入る。
1944年	8月	アウンサンを総裁として反ファシスト人民自由連盟(AFPFL)が結成され、ビルマ国軍もこれに加わる。
1945年	3月	AFPFL、対日反乱に決起。
	8月	日本降伏。
1947年	7月	アウンサン、政敵により暗殺される。
1948年	1月	ビルマ連邦として独立を果たす。首相はウーヌ。
1962年	3月	ビルマ国軍によるクーデター。ネウィンを議長とする革命評議会が結成され、ビルマ社会主義計画党(BSPP)による一党独裁がはじまる。
1974年	1月	新憲法公布、ビルマ連邦社会主義共和国となる。
1985～86年		アウンサンスーチー、京大東南アジア研究センターの客員研究員として日本に滞在。
1987年		国連により最貧国指定を受ける。
1988年	3月	デモに参加した学生が、警官により殺害される。これをきっかけとして反政府運動が全国的に高まる。
	6月	首都ラングーンで暴動が起きる。
	7月	ネウィン、BSPP議長を辞任。
	8月	ラングーンで、民主化・暫定政権樹立を要求する数十万人規模のデモが連日続く。アウンサンの娘、アウンサンスーチーが政治活動をはじめる。
	9月	国軍がクーデターを起こす。ソオマウンを議長とする国家法秩序回復評議会(SLORC)が全権を掌握。軍の弾圧により、デモ隊から大量の死者(米国務省によると約千人)が出る。
	9月	国民民主連盟(NLD)が結成される。議長はティンウー、書記長はアウンサンスーチー。
1989年	2月	日本政府、軍事政権を承認。ODAの継続案件を順次再開へ。
	6月	SLORC、国連に対して英語国称の変更を届け出る。
	7月	アウンサンスーチー、自宅軟禁される。
1990年	5月	総選挙が実施される。NLDが議席の約8割を獲得して圧勝するが、SLORCは政権委譲を行わず、NLDなどに対する弾圧を強化する。
1991年	10月	アウンサンスーチー、ノーベル平和賞を授賞。
1995年	7月	アウンサンスーチー、自宅軟禁から解放される。
1995年	11月	NLD、国民会議をボイコット。
1997年	7月	ビルマ、ASEANに加盟。

はじめに

Union of …

大熊にゃあ

七月二十三日、「ミャンマー」がラオスとともにASEANに加盟した、という記事を新聞で読んだ人は多いと思う。なぜカッコをつけるかというと、この名称には少なからず問題があるからだ。とはいっても、たいていの日本人はこの表記に違和感を感じていないようだ。私自身、ビルマのことを勉強しはじめるまで、「ミャンマー」を使っていたように思う。

今から七年前の一九九〇年五月、ビルマで総選挙が実施された。結果は、民主勢力の国民民主連盟(NLD)の圧勝に終わり、三十年近くにわたって続いた軍事政権時代もようやく終わりを迎えるかに思われた。

ところが、軍事政権である国家法秩序回復委員会(SLORC)は、選挙後も政権を明けわたさず、それどころかNLDをはじめとする民主勢力に対する弾圧を強めはじめた。そして、不当な政権が居座りつづけるという「異常な」状態が現在に至るまで続くわけである。

Union of Burma → Union of Myanmarという英語国称の変更は、この軍事政権がいわば勝手に決定したものである。よって、英語圏の大半の通信社や新聞社はBurmaを使い続けている。

だが、日本は外務省自体が「ミャンマー」を使うよう奨励し、ほとんどのメディアがそれに従っている。SLORCが一九八八年のクーデターで実権を握ったときも、日本政府はいちはやくこれを承認している。

こういったことにはもちろん、理由がある。それは第二次世界大戦中、日本軍が当時植民地であったビルマの反英勢力を支援したことにはじまる。戦後、日本は最大の援助国として経済的な関係を強めてきた。近年、経済進出の中心は日本から東南アジア諸国へと移りつつあるとはいえ、こういった事情が軍事政権の不当性や、内政におけるそのすさまじい人権侵害に対する批判を困難にしている。ASEAN諸国についても事情は同じで、「建設的関与」と称して、経済的な発展こそが国内の人権問題をも解決する、との外交政策を打ち出させている。

しかし、「人権よりまず経済発展」という言葉は正しいのだろうか。このアウンサンスーチーのメッセージを訳していて見えたのは、力で反対勢力を押しつぶす圧政そのものである。過酷な強制労働や、少数民族の迫害。そもそも、現在のビルマの貧困を招いたのは、「社会主義」と名付けられた長年月の軍政により、経済が破綻したことにあるのだ。

現在、タイ・インド・バングラデシュ・中国といった、ビルマと接する国々の国境地帯には、多数の少数民族や学生が、軍事政権の弾圧や強制労働を逃れ、ジャングルで独自のキャンプをつくって生活している。軍による襲撃を警戒し、マラリアに脅かされながら。銃を取って抵抗するカレン民族同盟(KNU)などの少数民族グループや、全ビルマ学生民主戦線(ABSDF)などの学生グループも存在する。政権による迫害のため、彼らは武器を取らざるをえないのだという。

大学生が武装しなければ自分の考えを主張できないような国の政府を、私は支持したくない。たとえ日本政府が支持しているとしてもだ。政治的な自由を含む人権は、何よりまず最初に優先されるべきものであると思う。そのうえで、新たな関係をビルマと日本は築き上げて行くべきではないだろうか。

なお、この文書は、今年の四月にアウンサンスーチーが国連人権委員会へ送ったビデオメッセージの日本語訳で、ビルマを含め、アジアのことを考える学生有志『踊れる猫たち(仮称)』の活動の一環として、「オルタナティブ運動情報メーリングリスト」に公開されたものである。

コース＋プラス1000円で飲み放題!!
すき焼き食べ放題コース 2,800円
(特選牛肉・地鶏・野菜盛合・うどん・ごはん・一品盛合・デザート付)
得々宴会コース 2,800円より
味で勝負の
ちゃんこ 恵那櫻（えなざくら）
全室個室
無料カラオケのある 京阪三条店（ケイハンサンジョウ）
京阪三条駅東へ200m南へ10m
☎541-0900

HOW TO GET THE CHEAPEST AIR TICKET
学会等に。正確・信頼の
KRK TRAVEL
㈱関西旅行研究会
京都市左京区吉田牛の宮町9
9 YOSHIDA-USHINOMIYA-CHO SAKYO-KU KYOTO 606
TEL075-751-1513(代)

器として、また民主主義のために活動する人間に嫌がらせや脅迫を行うための単なる暴漢の集団として利用しています。

十一月に、チーマウン氏とティンウー氏（訳注・二人はNLDの副代表）と私が乗っていた車を襲ったのは、USDAのメンバーたちでした。だから私は、USDAがしばしばただの暴漢にも等しいことを行なっている、と言うことに何のためらいも持ちません。これは責任ある政府にあるまじきやり方です。責任ある政府は、政治的に壊滅させたいと望む人を攻撃させるために、ならず者を集めたりはしないのです。

私たちは非暴力的な政治運動を行なっています。しかし、非暴力であろうとも、そうすることが正しいと考えられるのならば、政治運動は政府の政策に反対の意志を表わすことを許されねばなりません。そして実際に私たちが反対せざるをえない多くの政府の政策があります。というのは、それらが民主主義のための運動を破壊することを目的としているからです。

このような政府の政策を不当で抑圧的なものだとして批判せざるをえないとしても、だからといって私たちは犯罪者のように扱われるべきではありません。私たちの家族は犯罪者よりひどい仕打ちを受けています。犯罪者の家族が罰せられることはないからです。もし罪を犯したら、それが殺人であれ、強盗であれ、暴行であれ、罪を犯した人は罰せられますが、その家族は罰せられません。私たちの場合が違うのは、国民民主連盟のメンバーだけでなく、その家族だというだけで、メンバーの家族が重く罰せられるという点です。そしてしばしば非常に重く罰せられるのです。

現在の状況はこのようにひどいものなのです。ですから私たちは、皆さんが国民民主連盟に対してどういう弾圧が加えられているのか最大限の注目をして欲しいのです。つまり、現政権が国民民主連盟のメンバーをどのように扱っているかに注目して欲しいのです。そこに目を向けることで、当局が民主主義がビルマに根を張るのを妨げるためにどれほどのことをしているかがわかると思います。

そしてそれゆえ、現政権の行っていることとは、国連総会での決議の精神に対してだけでなく、決議の内容に対する真っ向からの敵対行為なのです。

宗教問題と社会不安

・二、最近起こっている、宗教に関しての不穏な動きについて意見をお聞かせ願えますか。

私の聞くところでは、大変に有名で、深く信仰されている仏陀の像、つまりマハミャットムニ像が傷つけられたという事実がマンダレーにおける不穏を引き起こしたということです。僧侶たちはこのことを非常に怒っており、また彼らは当局が何らかの形でこの像に現れたもの―確かひび割れだったと思います―について責任を負っているのではないかと考えています。

そして同じころ、イスラム社会に関する問題が始まりました。これはマハミャットムニ像に起こったことから注意をそらすために意図されたものなのではないかと推測する人たちがいます。それが本当なのかどうかは私にはわかりませんが、現在のイスラム社会と仏教の僧侶との間の問題はこの国にとって、全くよい影響を与えないとは言えると思います。

想像できると思いますが、当局はもちろん全ての事件をNLDのせいにしたがっています。何もかもをNLDの仕業にしようとしています。当局によれば、NLDがビルマで起こる事件をいつも指導しているとのことです。もし私たちがそんなに強い力を持っているなら、完全に権力を引き継いでしまうほうがましというものでしょう。

現在、状況は落ち着いているようにみえます。イスラム教徒と仏教徒の間に多大な緊張があるような地域もおそらくあるのだろうと考えられますが、全体としては人びとはとても穏やかで、争いを望んではいないと思います。そして僧侶たちもまた、概して自制と平穏を呼びかけていると思います。

真の原因、つまりこういったことの背後にある真の理由は、社会不安なのだと思います。地域で争いが起こるとき、それは社会不安に原因があるのです。社会不安はもちろん、政治的な不満や経済問題といった要因に関係しています。

だから、仏教の僧侶とイスラム教徒の問題を単独で考え、ああ、そこには問題がある、などと言うことはできないのです。問題は国中にあるのです。それは今日のビルマに見られる全体的な不調和の兆候にすぎないのです。

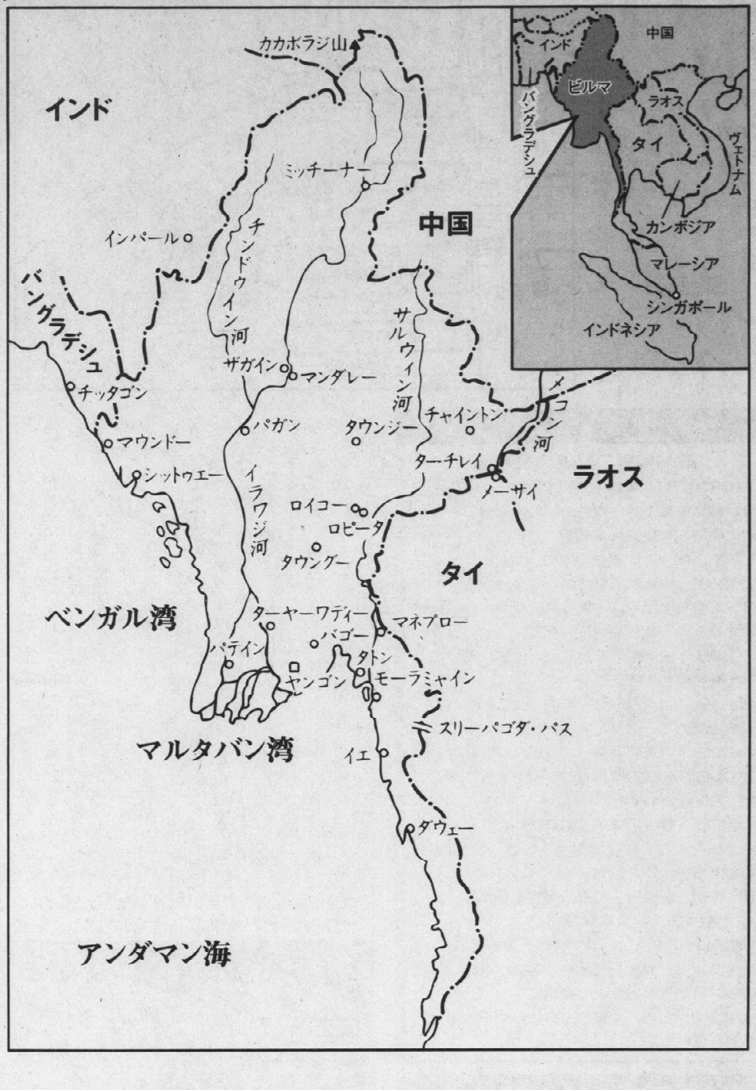
この状況が早く解決されることを私は本当に望んでいます。なぜなら、ビルマが地域に関係なく全ての市民にとって安全な国になってほしいからです。

深刻な難民問題

・三、現在、タイ−ビルマの国境において、しばしば難民が追い返されているという例についてはどうでしょうか。その状況をご存じですか。

ええ、こうした事態をとても心配しています。国際社会が可能な限り難民を援助することを本当に望んでいます。

そしてタイ当局は難民たちに同情をもって接し、彼らに危険な故郷に戻ることを強制しないでほしいのです。



もちろん、なぜこれほど多くの難民がいるのかという理由は、KNUと軍事政府との停戦（交渉）が失敗したことにあります。そしてこれは今日のビルマにおける政治情勢の不安定さの別の一面を示しています。SLORCは停戦を達成し、国境に平和をもたらすことができたと主張しています。言うまでもなく明らかなことですが、それは違います。

停戦は平和を意味せず、長期にわたる平和をもたらすなどということは全くありません。停戦とは、単にある期間互いに撃ちあうのをやめるというだけのことなのです。撃つ準備は保たれたままです。それは、停戦を続けるのがもはや賢明でない、また不可能であると思われたときにはいつでも射撃を再開できるということなのです。

私たちは少数民族の問題に関しても大きな不安を抱いています。もちろん、人びとは難民のことを知っています。しかし国境のこちら側にはカレン民族やその他の少数民族の村がたくさんあり、そこで人びとは多大な迫害や、弾圧、強制労働、拷問を受け、そして聞いたところでは、即決の処刑すら行われているということです。

そういうわけで、事態は良いものではありません。難民問題に関しては、UNHCRが彼らを助けることを認められ、そして国際社会ができる限りの援助をすることを私たちは本当に望んでいます。

日課となる強制労働

・四、ビルマにおける現在の人権侵害の状況についてはどんなご意見でしょうか。

ひどいものです。前にも言ったように、どの人権が侵害されているかという点について考えることはできません。どの人権が侵害されていないかという点について考えるしかありません。そして時として、侵されていない権利などないという結論に達することもあります。

強制労働は日課となっています。そしてしばしば両親が強制労働計画で働く時間を作れないため、子どもたちが駆り出されています。多くの人の生活水準が低くなっており、一日に二食を食べるためにも苦労しなければなりません。

よって、両親が賃金を支払われない強制労働計画に行かねばならないということは、その日家族は何も食べられないということを意味します。結果的に、彼らは自分たちが稼ぎに行っているあいだ、子どもたちを強制労働へ働きに出すのです。

そしてもちろん、建設現場で働く子どもたちもいます。強制労働ではないのですが、これもまた経済的な重圧のためです。多くの家庭は、子どもたちを働かせないことには家計を立てていくことができません。

小学生に関するUNICEFの記録を調べれば、こういったことがわかるでしょう。小学校を中退する子どもの割合は増え続けているのです。

そしてこれは、私の解釈では、主に家庭の貧困によるものなのです。彼らには子どもたちを学校へ行かせる余裕がありません。なぜなら、彼らは子どもたちにきちんとした服を着せることができず、またいろいろな寄付、つまり教育は無料だと考えられていますが、実際にはさまざまな行事や、学校の設備などに対して寄付をさせられるわけで、そういった費用を払うこともできないからです。

こういった費用を払う余裕がない、また子どもたちの稼ぎを家族が必要としている、などの理由で、両親は子どもたちが小学校を卒業する前にやめさせてしまい、そのため中退の比率は上がっています。つまり、ビルマにおける子どもの権利は緊急に注目をされるべき問題なのです。

・五、現在の状況に関して、国際社会の責務は何であるとお考えになりますか？

国際社会の主たる責務は、国連総会での決議の内容を実行するためにできる全てをすることです。前にも言ったように、とても立派な決議なのですが、紙の上にとどまっているべきではありません。実行されなければならないのです。

そして決議が全会一致で通った以上、国際社会はその内容を実行する義務を負っています。決議は重みを持つべきで、単なる一枚の紙切れとみなしてはいけないと思います。

ビルマにおける人権の状況に対して、私は強力な決議を要求したいのです。前にも言ったように、現在の軍事政権によってほとんど全ての人権が侵害されています。そして、この絶え間ない基本的人権の侵害を終わらせるため、私たちは国際社会の強い行動を必要としています。

私たちは、人権決議が特に政治的な諸権利の問題、そして人びとが強制労働や、強制移住といった重圧から自由になる権利について提言することを望んでおり、それはまた難民問題に関しても同様です。これらは私たちが主張したい三つの主要項目であり、政治的な権利は国民全て、特に国民民主連盟のメンバーによって享受されるべきものであると考えます。それはNLDが私の所属する党であるからではなく、前にも言ったように、NLDはビルマにおける民主主義運動を代表しているからです。

紙切れに終わらせないで・・・

そしてそれゆえ、国民民主連盟の政治的諸権利を守ることは、国連総会での決議の内容の実行を助けることにつながるのです。そして私たちは、強制労働と強制移住の問題を本当に真剣に扱ってほしいのです。それはこの問題が家族の生命を危うくし、病気を引き起こし、一部の場合においては死に至らしめることさえあるからです。そしてもちろん、難民問題もです。

結局、難民問題は政治問題から派生したものなのです。もしビルマの政治が安定しているならば、もし人びとの望みや、願いや、苦労や、憤りを合法的な手段で表現することを許す民主的な体制があるならば、難民に関する全ての問題など存在しないことでしょう。反政府軍の問題もないでしょう。人びとは、問題を解決できる方法が他にないと感じるから武力に訴えるのです。

彼らの問題を軍事的にではなく政治的に解決することを可能にする体制があるならば、ビルマに平和が戻ってくることだろうと思います。そしてその結果、難民問題はなくなることでしょう。一夜にしてそうなるというわけではありませんが、ひとたび正しい政治体制と政治的な風土がビルマにできたならば、確実に難民問題は解決されるでしょう。

これが、国民民主連盟および他の民主主義のために行動する政党の政治的諸権利の保障を、人権委員会における最重要議題として扱って欲しいと考える理由です。

また、国連事務総長の任命するビルマに関する特別報告者がビルマに入国することを認められ、何が起こっているかを理解し、体制に反対する人々と接触し、彼らがいかに迫害され、弾圧されているかをぜひ聞いてもらいたいのです。

ビルマにおける人権の状況を監視するための人びとを適切な場所から招くという案はすばらしいと思っています。私はこれが国連によって支援されることを願っています。

↓ドクター・タンニィエンの逮捕と釈放を告げるBURMANET、AFP各誌

BURMANET: **NLD党員のドクター・タンニェインが釈放される**　一九九七年四月四日

ドクター・タンニェインは、NLD党員でキンニュン将軍の義理の兄弟にあたる。彼は一九九七年四月一日に刑務所から釈放された。ドクター・タンニェインは、NLDラングーン支部組織委員会の議長代理で、ラングーンのThaketa Townshipで二月の初めから私設診療所の開設を準備していたところだった。彼は一週間後、診察室の写真を提出せずに患者を診たとして逮捕された(しかし彼は既に登録料を納めていたしその他の用件も満たしていた)。彼はNLD議長に宛てた手紙で、自分が逮捕されたのは、NLDを壊滅させるためのSLORCのキャンペーンの一環だと述べていた。

彼が逮捕されたことで、ラングーン市民の間で、キンニュン将軍の権力が衰退し始めているに違いないという憶測が広まった。キンニュン将軍が義理の兄弟と仲良くやっているということはないが、親戚が逮捕されたことで、キンニュンの顔は潰されたと考えてよい。しかし、ドクター・タンニェインが、早くに釈放され、わずか一〇〇〇チャットの罰金刑で済んだということは、他のNLD党員が同様の軽微な法律違反で長期の刑を言い渡されていることをかんがみれば、キンニュンには、義理の兄弟のために仲裁に入る力がまだあると見てよいだろう。

AFP: **情報局長の親戚筋の国会議員、釈放**　一九九七年四月四日

ラングーン発、四月四日(AFP)―消息筋が金曜日に語ったところによると、政府の許可を受けずに診療所を経営していたとして告発されていたビルマの野党国会議員は、簡単な罰金刑のみで釈放されたとのことである。

ドクター・タンニェインは、二月一九日にビルマ保健省から「医師職業倫理に違反した」として医師免許を取り消しの処分を受けていた。彼は一〇〇〇チャット(一般市場レートで六ドル)の罰金を払って、水曜日に監禁を解かれた。

彼は、キンニュン中将兼国防省情報局長で、ビルマ軍事政権(SLORC)の第一書記の義理の兄弟にあたる人物である。

政権を監視している側は、アウンサンスーチー(ノーベル平和賞受賞者)が率いる国民民主連盟(NLD)のメンバーが適正な法手続きによって裁かれたのは、これがはじめてであると指摘している。

NLD党員は、微罪で逮捕された場合でも、三年から七年の懲役を言い渡されるのが普通である。

タンニェインは、NLDラングーン支部の副議長を務めている。彼はNLDが大勝した一九九〇年五月の総選挙で議員に選ばれている。SLORCはこの選挙結果を無視し、選挙結果に基づいた国会を一度も召集していない。

ところで、別のNLDの国会議員兼医者が、金曜日にラングーンの法廷に出てくることになったという情報もある。ドクター・タンアウンがその人であり、彼は無許可で診療所を経営し、過失によって患者を死なせたとして、二月二一日に告発されている。

ラングーンで政権を監視している勢力は、ドクター・タンアウンも、NLDの同志であるタンニェイン同様の公平な裁判を受けることができるのではないかと期待していた。

京都大学新聞社
新人文学賞
作品募集中！！
締切97年10月末日
選考員に
森毅京大名誉教授、若島正文学部助教授
を迎えて
27年ぶりに復活！！
発表は本紙98年1月1日号（予定）
応募資格は特になし
最優秀作品には賞金10万円
小説など、何らかの意味を持つ文章であればどんなものでもOK！
400字詰め原稿用紙換算で30枚から50枚。
本文前に題名、氏名（筆名）、略歴、住所、電話番号を明記した表紙を付した上、京大新聞社までお送り下さい。
なお、極端に独創的で著しく難解と思われるものには、簡単な解説・創作図を付記してもかまいません。

東大駒場寮への廃寮化攻撃を批判する

京都大学でも副学長制導入が取りざたされ、大学改革の風が吹き荒れる今日この頃。全国に先駆けて大学改革を実施、ついでに副学長制まで導入した東京大学では、教養学部が総力をあげて駒場寮への廃寮化攻撃を日々くり返している。学生の声を無視する大学は、学生の声に対して、私兵化したガードマンの暴力で応対する。大学について、学問について、普段は偉そうな事を書き、話す教官も、自分たちの活動の基盤となる東大駒場キャンパスの、駒場寮の問題にはふれない。そんな大学になる改革はいらない。そんな大学でガードマンの暴力が吹き荒れた事件が起こった。その時のことをレポートしてもらった。

そのとき駒場でおきたこと

東大教養学部の腐りきった「知」――6・28事件の真相

水島たかし（東京大学学生）

学生を殴るガードマン、見物する教授たち

抗議の寮生らが上に座り込んでいるにもかかわらず、構わず渡り廊下や庇の柱を破壊するユンボ（工事車両）。「このやろう」などと怒声をあげながら寮生らにつかみかかり、職務をはるかにこえて殴る蹴るの暴行を加えるガードマン。時にはニヤニヤしながらその一部始終を傍観していた多くの教官。その結果、学生二十数名が怪我、四人が救急車で運ばれた。

「今時、地上げ屋でもやらない」ような暴力行為が白昼堂々、「知」の担い手を自認する人たちの指導のもと行われたのであった。これが六月二十八日に東大駒場寮で起こったことである。

* * *

この日の衝突がおこった直接の原因はキャンパスプラザ建設のためのフェンス設置であった。キャンパスプラザとは、駒場寮廃寮後のサークルスペース代替として計画され、学生側の支持がないまま強引に計画が進められてきた施設である。駒場寮三棟の内の一棟である明寮も、このキャンパスプラザ計画を唯一の口実として仮処分をかけられ、不当判決・執行の結果破壊された（註1）。

キャンパスプラザ建設計画は、駒場寮の北寮裏口および渡り廊下がかかるように設計されていた。学部当局は工事開始の期日を明らかにしない一方で、フェンスはずらしてかからないようにする、と直前まで明言し続けたが、二十七日の交渉の場で「可能性を模索したが無理だった」と一方的に通告。結論から言えば、学部ははじめからずらすつもりなどなく、単に学生を油断させるためのポーズだったのはほぼ間違いない。そもそも破壊された北寮裏口の部分には、いまだに水道管が残っていることからもわかるように、必要性がないにも関わらず北寮の一部にフェンスがかかるようにしたのだろう。寮を破壊して、それを既成事実化することだけが目的の「工事」だったのである。こうした学部当局の暴挙に抗議するため、駒場寮は工事強行を阻止する方針を決めた。

二十八日、朝七時過ぎ、ガードマン（註2）が駒場寮の裏手に集結してきた。寮生も工事を阻止するため渡り廊下の屋根に上って対峙。しばらくは屋根に上ろうとするガードマンと小競り合いが続いていたが、明寮跡地に待機していたユンボの搬出をめぐって衝突。搬出を阻止しようと、車で搬出口のところに乗り付けた寮生らは、車から引きづり出された上にガードマンに囲まれて激しい暴行を受けた。

結局ユンボは搬出され、寮生らは渡り廊下の屋根に乗って抵抗したが、乗ったまま解体工事は強行され、屋根と一緒に危うく落とされそうになった人もいた。また破壊に気を取られている隙に、渡り廊下の上にガードマンが上がり、寮生らを掴んで引きづり降ろした。その際、寮生を屋根の上から放り投げておきながら下にいたガードマンが受け取ることもせず、足下に落ちたところを袋叩きにしたケースが多く見られた。

こうした中、駒場寮の弁護士が到着。寮委員長とともに学部長室のある101号館へ向かったが、職員が人垣を築き、中に入るのを妨害。学部長特別補佐の永野三郎教官は、弁護士らに会おうともせず揚げ句に「忙しいから」と追い返した。

この間も破壊活動は絶え間なくすすみ、北寮裏口の庇の柱の一本を、上に人が乗っているにもかかわらず破壊。後にはもう一本も破壊した。もしそのまま庇が崩落していれば、何人もの死傷者が出るかもしれない事態であった。また先ほど破壊した渡り廊下とは反対側の渡り廊下の屋根も破壊。今度も屋根に人が乗ったままで、屋根ごと数人が落下した。

また、ひそかに学部は寮風呂の破壊も開始した。寮風呂は仮処分でも何ら結論は出ておらず、その破壊の根拠には学部自らの「寮風呂は廃寮になった駒場寮の一部だから壊す」というものしかない。ガードマンの力にものを言わせた暴挙という他はないが、この学部の行為に怒った一人が現場に向かい、裏からフェンスの中に入ろうとすると、ガードマンが「押さえつけろ」と殴りかかり、二十名近くのガードマンが「死ね、このやろう」「ふざけんじゃねぇ」などと叫びながら彼が気を失ってもリンチを続け、他の人が様子を見に来るまで暴行は続いた。彼は救急車で運ばれた。ちなみに、安全靴で蹴られて頭を割られたにもかかわらず、当初ガードマンはその傷を「自分で転んだ」などとふざけた説明をしたという。

昼頃、北寮裏口の庇を残して事態は膠着状態となった。水道は前日からこの工事のために止められ、電気は教官によってコードが切断されたため寮内は薄暗かった。座り込んでいる寮生を排除するためガードマンが北寮内に突入してくることが予想され、すでに封鎖してあった一階の入り口をバリケードで強化した。

そして予想は的中する。午後二時半すぎ、駒場寮廃寮を推進するための委員会である三鷹特別委の委員長、小林寛道教官は、軍隊と勘違いでもしたのか「総攻撃を開始します」という信じられない言葉で命令を出す。するとガードマンが北寮一階の窓や入り口から侵入を開始する。さらに北寮裏口の扉をユンボで破壊しようとした。言うまでもなくこの扉は明らかに北寮の一部であり、破壊を正当化する論拠は一切ない。結局北寮の正面入り口のバリケードが、このユンボの突進に気を取られている隙に突破され、ガードマンの侵入を許した。

ガードマンは寮内から庇の上の寮生らの排除を開始するが、その際電気の切られた暗闇のどさくさに紛れて、ガードマンの侵入を阻止しようとした一人がガードマンに突然殴られたうえに引き倒され、殴られた右目は一時失明状態、倒されたときに歯も破損させられた。また座り込んでいた一人も、ガードマンらに突然体を掴まれて廊下に引きづり倒され叩きつけられて意識を失った。意識を失っている間に、蹴られたり踏まれたりといった暴行も受けたようだ。この二人も救急車で運ばれた。

こうして庇の上からは暴力的に学生を排除し、庇の破壊も遂行したのだが、その間、寮内に突入したガードマンは、「上司に命令された」を唯一の言い訳として寮に入ろうとする寮生をいれさせないなど許しがたい行動に出た。ガードマンという金で雇われた暴力集団が力づくで寮を占拠したカッコウとなったのである。

午後五時過ぎに破壊も終わり、教官やガードマンは去った。電気もその晩には自力で復旧したが、いまだに北寮と中寮を結ぶ放送設備は破壊されたままであり、北寮裏の入り口も生々しい破壊の傷跡を残している。

* * *

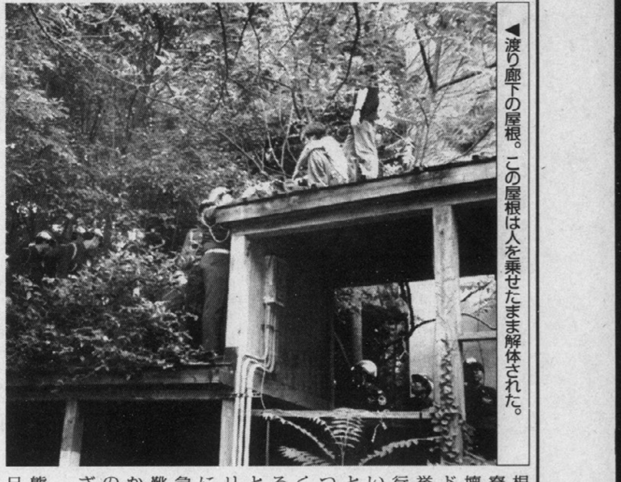
寮生らに職務以上に敵対し、警備業法に明白に違反する暴力をはたらいたガードマンの行為は許しがたい。特に今回、今まで以上にガードマンが残虐だったのは暴れたい若者をアルバイトで多く雇ったからだ、という噂もある。しかしガードマンの暴挙は今回の事件の本質ではない。

ガードマンを雇ったのは東京大学教養学部である。二十八日当日に集まったガードマンの人件費だけでも数百万円は確実に出ている。これに三月からの経費を加えて考えれば、ガードマンだけで今までに少なくても数千万円はかかっている。ガードマンを動員しないと「解決」できない事態をつくったのは誰なのか、そのためのお金はどこから出ているのか。これは教養学部の犯罪である。

しかし、教養学部が単に暴力ガードマンの雇い主であるから責任がある、というだけではない。教養学部当局の人間は現場においても共犯である。なぜなら、彼ら教官・職員の多く（約二百人）は、黄色い腕章を巻いて一部始終を見ていたのだ。抗議につめよる学生が少しでも体に触れようものなら「暴力学生だ」と騒ぎ出す教官が、ガードマンのふるう暴力・暴言の数々を、時にニヤニヤしながら傍観していたのである。自分たちは手を下さず、ガードマンの後ろに隠れて、「大人」を装う。こうした教官の中には、『知のモラル』の編者である小林康夫や船曳建夫、あるいはフーコー研究者のはずの石田英敬など、日頃活字上で御託を並べている教官が多数含まれている（註3）。

学部当局は後日、この日の駒場寮の抵抗を「無法な妨害行為」と称して「大学の深刻な危機」である、とぶちあげた。ふざけるのもいい加減にして欲しい。二十八日の事件とは要するに、金と権力を持っているもののやりたい放題であったのである。大勢の暴力的「学外者」（＝ガードマン）を札束で招き、有無を言わせず破壊する。そこには一片の正義もない。それが証拠に当日きた某テレビ局のカメラクルーを、「すでに寮はなくて更地です」といった明白なウソもつきながら追い返した。学部が自分たちの行動を、学内向けの恥ずかしいビラ（タイトルは「教養学部は訴える！」と！がついている）だけなく全国向けに正当化できるというのならテレビ中継でもすればよい。三月の仮処分の時同様マスコミを追い返すのは、報道されたくない恥ずかしいことをやっていることの証拠である。

このような全く許しがたい手段をいつまでも続けられると思っているのだろうか。我々は、学部当局が駒場寮跡地計画であるCCCL計画の破綻を認め、駒場寮廃寮計画白紙撤回することを強く要求し、そのために闘う。駒場寮の闘いに是非ご支援を。



▼渡り廊下の屋根。この屋根は人を乗せたまま解体された。

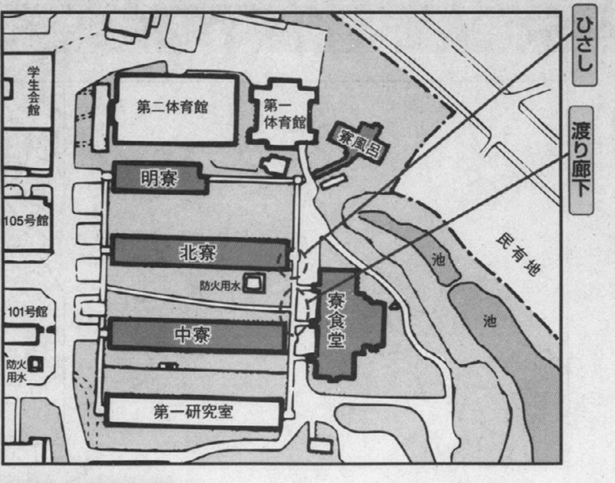
北寮二階裏、学生が座り込んでいた「ひさし」につながる窓の前。大量のガードマンが突入、学生をふさいだ。当日午後2時30分頃

註1　これらの事情は仮処分判決（第一次）および駒寮委員会発行「4・22報告集会パンフ」を参照のこと。（http://plaza9.mbn.or.jp/~n2s/siryo.htmlに収録）

註2　駒場寮問題でのガードマンはずっと新帝国警備である。ちなみに新宿野宿労働者へ暴行をはたらくガードマンは帝国警備で新帝国警備とは系列会社らしい。

註3　当日の暴挙を傍観していた教官の名前（一部）は註1のページからたどれる駒場寮委員会のビラに詳しい。このビラも指摘するように、当日現場にいなかった教官についても、廃寮は仕方ないとして当局の動きを容認している以上、責任がないとはとてもいえない。

（みずしまたかし・東京大学三回生
e mail : takasi m@usa.net）
駒場寮内サークル文理研メンバー
http://plaza9.mbn.or.jp/~n2s/



■東京大学駒場寮・・東大教養学部構内にある学生寮。明寮・北寮・中寮の三つの寄宿棟がある。南側の第一研究室棟も、以前は寮として使われていた。旧制一高の時代から存在する学生寮で、その歴史は古い。現在は、学生寮として使われているほか、多くの部屋がサークルBOXとしても使用されている。また、昨年から北寮一階にBARが、今春からは向かいに喫茶店もオープンし、新名所となっている。独特の雰囲気を生かし、六月には寮風呂で上々颱風のライブが行われた。今後も継続的に、様々な公演を行う予定。

■駒場寮の最近の経過■

1997年2月7日　駒場寮「問題」の一挙解決を図り、駒場寮の「明け渡し断行の仮処分」を裁判所に申請。学生側の求める「話し合い」を拒絶し、学内解決の放棄を明確にした。
2月25日　東大教養学部が、学部長名で、明け渡しをしなければ、執行費用や損害賠償を要求するという文書を寮生に郵送。
3月19日　国（東大）が北寮、中寮の明け渡し申請を取り下げ。
3月25日　東京地裁が明寮明け渡しの断行仮処分を認める。
3月29日　明寮明け渡しの仮処分が強制執行。
3月30日　明寮を取り囲むフェンスの工事。学生に阻止される。
4月12日　教養学部が、明寮を囲むフェンスの工事を強行。教養学部はこの日、延べ450人ものガードマンを動員。
5月3日　寮風呂の脱衣所が教養学部によって破壊されているのが判明。
6月28日　「キャンパスプラザ」建設工事のためのフェンス設置を理由に、学部が寮の一部を破壊。けが人が多数出る参事に。
8月7日　北寮、中寮の占有移転禁止仮処分が執行される。

6月28日当日、参加した教官（一部）

船曳建夫（教授・『知の技法』『知の論理』『知のモラル』共編者・文化人類学）／**豊島洋子**（助教授・生物）／**小林康夫**（教授・『知の技法』『知の論理』『知のモラル』共編者・仏語）／**川原貴**（助教授・体育）／**鍛冶哲郎**（助教授・独語）／**松浦寿輝**（助教授・著書：『ウサギのダンス』『松浦寿輝詩集』）／**石光泰夫**（教授・独語）／**松原隆一郎**（助教授・著書：『格闘技としての同時代論争』・経済学）／**川中子義勝**（助教授・独語）／**増田茂**（教授・化学）／**古田元夫**（教授・元東京大学教養学部教職員組合委員長・歴史学）／**兵藤俊夫**（教授・物理）／**川戸佳**（教授・物理）／**刈間文俊**（教授・三鷹特別委委員・『火種―中国知識人の良心の声―』編訳者・中国語）／**生井澤寛**（教授・特別委員・物理）／**池田信雄**（教授・特別委員・ヴィム・ヴェンダース『ベルリン天使の歌』字幕共訳者・独語）／**石田英敬**（教授・仏語）／**玉井哲雄**（教授・情報図形）／**高橋均**（助教授・スペイン語）／**小林寛道**（教授・特別委員長・体育）／**遠藤泰樹**（助教授・化学）／**佐々真一**（助教授・物理）／**小宮山進**（教授・物理）／**大澤吉博**（教授・教務委員長・英語）／**石井明**（教授・国際関係論）／**杉橋陽一**（教授・独語）／**下井守**（教授・化学）／**三角洋一**（教授・国漢文学）／**甚野尚志**（助教授・歴史学）／**松田良一**（助教授・生物）／**徳盛誠**（助教授・元駒場寮委員長・学生委員・国漢文学）／**村田純一**（助教授・『知覚と生活世界』・学生委員・科史科哲）／**山脇直司**（助教授・学生委員・社会思想史）／**松岡心平**（助教授・国漢文学）／**高田康成**（教授・英語）／**瀬川浩司**（助教授・化学）／**高野穆一郎**（教授・学生委員・化学）／**深代千之**（助教授・体育）／**染田清彦**（助教授・化学）／**小牧研一郎**（教授・物理）／**生越直樹**（助教授・朝鮮語）

[出典:http://plaza9.mbn.or.jp/~n2s/kr/0628.html]

京都大学を知る本 97
定価1360円（税別）
京大新名所案内
◆元教授 山田稔
■ニュースで振り返る京大の一年
京大百周年で100億の予定がわずか3億
時計台の悲しき胸算用
聞くも涙、語るも涙の京都貧乏生活
▼これでも大学は国際化したと言えるのか
民族学校卒業者受験資格を考える
▼京大セクハラ事件の真相とその後
▼自主管理空間の灯を消すな
新サークル棟建設問題を探る
▼日本語も？？だけど、それでも外国語のススメ
英語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・スペイン語・中国語
ああ無情、悲喜交々の学生労働者哀歌
「学者って何？」学者の卵4人が大討論会
創刊十一年目を迎え、ますます豪華な内容に!!
編集 京都大学新聞社　販売 六甲出版
京大生協他、全国有名書店で絶賛発売中!!

入所日…毎土曜日
低料金で入所
スピーディに卒業
―卒業生の事故率は極めて低く 学科合格率は高位を誇っています―
普通車科技能コース
◎随時制…ご都合の良い時間を選べます
◎速成科…「合宿と同じ二十二日間で終了」を目標に一日二時限、ご都合の良い時間で
◎定時制…一日一時限、ご都合の良い時間を優先確保します
二輪車科技能コース
◎随時制…ご都合の良い時間を選べます
お申し込みは生協プレイガイド
京都大学よりバス送迎15分
–One of the most traditional in City!–
KOETSU DRIVER'S & RIDER'S SCHOOL
普通 二輪 光悦自動車教習所
親切、丁寧 確実な指導が 人気のマト！
まっさらなハートが走りだす
〒603 京都市北区大宮玄琢南町25　電話075-493-0101　千本北大路上るスグ

新聞だけじゃない！
いろいろ出してる京大新聞
☆卒業アルバム「Year Book」
★入学アルバム「Fresh Book」
受験生向け雑誌「京都大学を知る本」
編集員募集中